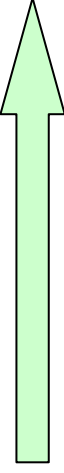
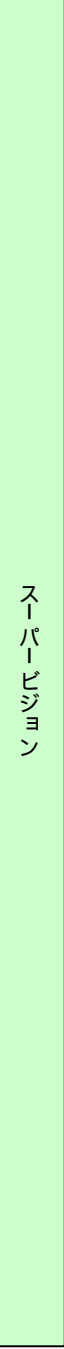


週	区分	実習のねらい	プログラム	指導者に必要なコンピテンス			実習で活用するツール・資料・教材	
				価値	知識	技術		
実習前課題・要望	基礎知識・契約	(1)事前学習 - 学生が行うこと 医療機関・施設の機能や目的の理解 医療機関・施設の法的位置づけの理解 医療機関・施設の地域における役割の理解 MSWの仕事の理解 社会福祉士の倫理綱領の理解 MSW業務指針の理解 (2)事前訪問 - 指導者が行うこと 実習中の決まりごとの説明を行う (基本的姿勢・挨拶・服装・時間・モラル・マナ-など) 守秘義務の遵守について説明を行う 実習課題の明確化と目標の確認を行い共有する 学生との信頼関係の形成に配慮する	(1)事前学習(再学習) 社会福祉の価値や目的、倫理綱領の再学習 ・実習施設 ・MSWの仕事 ・社会福祉士倫理綱領 ・MSW業務指針 医療の動向と機関・施設の法的位置づけ 実践技術 ・面接技術 ・コミュニケーション技術 (2)事前訪問 実習機関オリエンテーション ・実習目的の確認 ・実習契約 ・実習計画の作成		価値 ・基本的人権 ・プライバシー(個人情報)保護 ・秘密保持 ・生命倫理 ・クライアントの利益優先	知識 ・医療制度改革に関する知識 ・医療福祉に関する知識(業務指針、倫理綱領) ・面接技術 ・コミュニケーション技術 ・個人情報保護法に関する知識	技術 ・面接技術 ・コミュニケーション技術	実習で活用するツール・資料・教材 ・倫理綱領 ・MSW業務指針 ・病院パンフレット ・業務マニュアル ・実習プログラミングシート
		(1)プログラム(実習内容)の確認 プログラムに関する説明 スーパービジョン体制の理解 (2)実習機関を理解する 回復期リハ病棟の法的位置づけの理解 地域特性や社会における役割 実習機関の理解 疾病の理解 各部門の理解 (3)MSWが行う業務を理解する 実践プロセスの理解 他専門職の専門性の理解、達成目標の理解 地域との連携 記録の重要性の理解 社会資源の活用 面接技法の理解 (4)MSWの視点 対象者の理解 ・身体的、精神的、社会的側面での理解 生活課題とニーズの理解 チーム医療の理解	(1)プログラム(実習内容)の確認 実習オリエンテーション ・事前学習の確認、実習プログラム提示 スーパービジョンの方法についての説明 ↓ 講義・参与観察 または 直接援助 (2)実習機関(回復期病棟)を理解する 講義「回復期リハビリテーション病棟について」 ・「機関紹介」「対象患者(制度・患者理解)について」「部門紹介」「地域特性」 ・チーム医療 病院内見学、他部門見学 講義「疾病について」 講義「各部門の機能と連携について」 (3)MSWが行う業務を理解する 講義「病院内におけるソーシャルワークの展開」(チームアプローチの必要性と方法)(MSWが行う地域との連携) *事例を用いて ソーシャルワーク業務の同行(カンファレンス、各種ミーティング、面接の同席、リハビリ場面同席、在宅訪問等) 他職種理解(Dr/Ns/PT/OT/ST/CW等) 記録の意義、目的についての説明と理解、記録の通読 講義：「社会資源について」 ・部門内の資料整理・閲覧 講義 (4)MSWの視点 ソーシャルワークの展開における総合的理解 MSW業務に同行し、理解を深める ・対象者の理解(身体的、精神的、社会的側面での理解) ・障害受容過程の理解 講義・事例により理解を深める カンファレンス同席、他専門職との連携方法を説明 ・他専門職の専門性の理解、達成目標等の理解 ・他職種連携及びMSWとしてのコーディネーター的役割の理解 ・視点の共通点及び専門性の理解			価値 ・基本的人権 ・プライバシー(個人情報)の保護 ・秘密保持 ・生命倫理 ・クライアントの利益優先 社会貢献 自己決定の尊重(説明と同意) 個別化 他専性の尊重	知識 ・医療機関の種別や役割に関する知識 ・機関の機能とMSWの役割 ・チーム医療に関する知識 ・ネットワークに関する知識 ・記録方法に関する知識 ・疾病や障害に関する知識 ・生活モデル(生態学的視座) ・メディカル・スタッフに関する知識	技術 ・信頼関係形成(実習生との関係づくり) ・コミュニケーション技術(実習生への説明能力) ・記述法 経過記録 要約記録 逐語記録 チームワーク調整能力 ・面接技術
一週	機関と業務の理解							

<p>第一三週</p>	<p>実践の理解</p>	<p>(1)ソーシャルワークの理解【一つのケースをととして】 社会福祉の価値、目的、倫理についての理解 利用者との信頼関係をつくる方法の理解 疾病や障害受容についての理解 面接技法を学ぶ ・ インテーク面接・技法の理解 ・ 利用者との援助関係の形成 ・ アプローチの方法 ・ 自己覚知 アセスメント方法の理解</p> <p>初期の支援計画を立案する方法を理解する ・ 患者理解（病気・障害・環境） ・ チームアプローチの理解 ・ 環境因子をもとにした立案の理解 問題解決のための社会資源の活用方法を理解する ・ 問題抽出の為のアセスメントの重要性の理解 ・ 必要な社会資源の焦点化</p> <p>記録の方法を理解する ・ 記録の必要性 ・ 記録方法 ・ 記録の活用</p> <p>(2)クライアントの理解 クライアントのパーソナリティの理解 疾病や障害からくる諸問題の理解 生活課題の多様性の理解 クライアントや家族を取り巻く環境の理解</p> <p>(3)連携 専門職としての連携 組織としての連携</p>	<p>(1)ソーシャルワークの理解【一つのケースをととして】 講義、事例、参与観察による理解 講義、事例、参与観察、ロールプレイによる理解 講義による、疾病、障害についての理解 面接による、障害に対する患者の思いの変化を理解 講義、事例、参与観察によるインテーク面接、援助関係の形成、面接技術の理解</p> <p>講義、事例、参与観察、面接、カンファレンスによるアセスメントの理解 ・ 患者、家族からインテーク ・ カルテからの情報収集 ・ 病院内外等関係先からの情報収集</p> <p>・ 説明、面接による理解 ・ 講義及び自主学習、訪問による理解 ・ カンファレンス、個別の情報交換 ・ ロールプレイ、参与観察、ケースワークを実施にてアセスメント・支援過程・初期支援計画を学ぶ ・ 面接技術の活用 ・ 事例検討 ・ 記録の閲覧、作成をおこなう</p> <p>(2)クライアントの理解 講義、参与観察、ロールプレイ、ケースワークを実施し、アセスメント段階にて理解する</p> <p>(3)連携 MSW の情報提供における視点の理解（情報提供書作成等） 地域連携バスについての理解</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権 ・ プライバシー（個人情報）の保護 ・ 秘密保持 ・ 生命倫理 ・ クライアントの利益優先 </div> <p>受容・共感・理解 自己決定の尊重（説明と同意） ノーマライゼーション 自律・自立支援 エンパワメント</p> <p>自己覚知・ラポール</p>	<p>・ ソーシャルワークの理論 ストレngths ライフサイクル ・ 問題解決の視点 ・ 障害受容のプロセス理解 ・ バイステックの7原則 ・ アセスメント技法 ・ 社会資源の知識 ・ ハイリスク・スクリーニング ・ ストレngths</p> <p>個別・グループ</p>	<p>・ エコロジカル アプローチ ・ ナラティブ アプローチ ・ 問題解決アプローチ ・ 信頼関係形成 （クライアントとの関係づくり） ・ マッピング技法 エコマップ ジェノグラム ・ マネジメント技法 ・ 面接技法 ・ ノンバーバル コミュニケーション ・ モニタリング</p> <p>支持・教育 管理・評価</p>	<p>・ 実習プログラム ・ 倫理綱領 ・ MSW 業務指針 ・ フェイス・シート ・ アセスメント用紙 ・ マッピング用紙 ・ ケース記録 ・ 記録用紙 プロセス・レコード ・ 各種ビデオ教材 ・ 各種報告書</p> <p>福山和女先生の図書など</p>
<p>全般</p>	<p>S V</p>	<p>支持的理解のもと潜在能力を育てる</p>	<p>スーパービジョン</p>				